神戸大学ニュースネット
NEWS NET
6月号
©神戸大学ニュースネット委員会 http://home.kobe-u.com/top/newsnet/index.html
関西学生報道連盟共同編集室＝〒532-0011大阪市淀川区西中島3-21-9-502
電話06-6307-1315　FAX06-6307-1316　メールnewsnet@kobe-u.com

日本最速　毎日2回更新　新鮮バイト約4,000件　日本最大級
ケータイでバイト探すなら
モバイルan
iモード・ボーダフォンライブ!・EZweb 公式サイト

今月の主な内容

2面：総合文化
4面：留学特集
8、9面：総合スポーツ

職員が資金流用

「1700万円横領」遺書残し自殺
調査委員会を設け、被害額を確認中

経営学研究科の元管理職の男性職員（56）が3年間、親睦会の積立金など約1200万円を私的に流用し、4月20日午前3時ごろ自殺した。遺書には、経営学研究科の職員親睦会費など約1700万円を使い込んだことが記載されており、事実が発覚した。大学は、うち1200万円につき被害があったことを確認している。大学は正確な被害額を確認するために調査委員会を設けている。

職員は67年から神戸大に勤務しており、02年4月から05年3月まで同研究科で勤務していた。その間、教職員ら約90人からなる親睦会の会費などを一人で管理していた。この職員は忘年会などの積立金約800万円や、教授らが図書出版の際に使う積立金約400万円、計1200万円を使い込んだことがわかっている。大学の管理体制は、慣習的に職員に通帳と印鑑の管理を任せ、年に一度、収支報告書を提出させるという形だったため、チェック機能を果たしてはいなかった。現在、大学は正確な被害額を確認するために調査委員会を設け、確認が済んだ段階で処置をとる予定でいる。

4月22日に行われた葬儀について、岩川総務課部長は、「参列した人たちは一様に驚いていた」と状況を話した。また、「職員は前日も大学に勤務しており、誰に聞いてもごく普通だった」という。

同部長によると大学側は、20日に行われた記者会見の始めと終わりに頭を下げ、「このような不祥事が二度とおきないよう、職員には注意していきたい」と話したという。

職員による大学の資金の横領事件は会計上の監査システムが整ってからは初めてだった。【杉浦加奈】

応援団45周年

「手作り」式典で節目祝う
OB・OGら約200人が参加

応援団の総部創立45周年記念式典が4月29日、六甲台講堂で行われた。式典にはOBやOGなど約200人が訪れた。出席者は懐かしい顔に出会い、思い出話に花を咲かせた。

1年前から現役部員とOB・OGで準備された「手作り」の式典は、震災で亡くなった関係者に黙祷が捧げられ始まった。続いて、応援団OB会である翔鷹会の藤原規洋会長、吹奏楽部OB会の蔭山慎吾会長がそれぞれ挨拶を述べた。野上智行学長は「創部者の菅さんが、いらっしゃらないのが残念。応援団は大学の顔、応援団があるところに神戸大がある」と述べた。現役応援団団長の中田安俊さん（経営・4年）は「ホームページの充実など、時代に合わせた活動もしていきたい」とこれからの抱負を述べた。また、現役吹奏楽部部長の平田健悟さん（工・3年）は「OB演奏会などあたらしいことも考えています。さらに盛大な50周年目を迎えられるようがんばりたい」と話した。応援団の演技のあと、出席者全員で学歌を歌い、式は終了した。

式典に参加していた第9代応援団の人たちは「昔はチアガールはいなかった。スタイルが変わり、華やかになった」と時代の流れを感じていた。

その後、行われたパーティーでは現役団員がOBやOGとの会話を楽しんだ。会場には歴代部員の写真が並べられており、参加者は当時を思い出しながら感慨深そうに眺めていた。

応援団は45年前に当時の学生が、大学をひとつにまとめ盛り上げようと設立した。【大野将寛】

力いっぱいエールを送る現役部員たち（4月29日・六甲台講堂で　撮影＝杉浦加奈）

「演劇の楽しさ伝えたい」
はちの巣座が新歓公演

演劇研究会はちの巣座による新入生歓迎公演「スペースラブ」が、4月24日から4日間にわたり、六甲台講堂で行われた。公演初日は大学が休講の日曜日であったにもかかわらず約40人の観客が訪れ、劇場をにぎわせた。

公演の内容は、「6人の乗組員がスペースラブという宇宙人を捕獲する計画を実行するため宇宙に旅立つが、宇宙人を発見出来ずに帰路につくことに。途中で彼らは宇宙服も身につけず宇宙空間を漂う少女を発見する。少女の正体を探るにつれ乗組員たちの過去が明らかになっていく」というもの。

コミカルな場面では客席に笑いがおこり、また、緊迫した場面ではスモークなどの演出により観客は演技にひきこまれていった。

今回の公演は新入生に演劇の楽しさを伝える目的で演じられた。

初演出となった、はいどろげん☆さん（発達・3年）は「言いたいことを部員に伝えるのがむずかしかったけど、みんながわかろうとしてくれたので、うまくいった」と語った。

教え子を連れてこの公演を見に来た、東大阪市の中学校で演劇同好会の顧問をしている教諭（47）は、「元気でおもしろかった。台本もよかった。役者の方がおもしろい所、はらはらさせる所をやりきっていたのがよかった」と感想を述べた。【新川大輔】

新歓公演の初日、演技にも熱が入る（4月24日・六甲台講堂で　撮影＝杉浦加奈）

マスコミってどんなところ？
新歓講演会を開催

新歓連続講演会「メディアをめざすひとへ」（主催＝ニュースネット委員会、同OB会、UNN関西学生報道連盟）が4月と5月の2か月間、計4回にわたり行なわれた。マスコミで働くニュースネット委員会のOB・OGら4人が講師として招かれ、それぞれの見地から新入生に向けてメディアの現状や、仕事の内容を説明した。参加者は皆熱心に話に聞き入っていた。

第1回講師の里田明美さん（96年自然科学研究科卒）は現在、地方で新聞記者を務める。講演の中で里田さんは最初に新聞記者の勤務形態について触れ、男性と比較して女性記者の人数が少ないことについて言及した。また、新入生に向けて「新聞記者になるためにはどんなことにでも自分の意見を持つことが大切」と説明。会場からは「テレビ記者と新聞記者の違いは？」といった質問が出た。

第2回講師の川畑亜紀さん（97年文卒）は大学卒業後、FM静岡の局アナを経てフリーアナウンサーに。現在はKBS京都ラジオの生番組などを担当している。講演では、「（アナウンサーになるためには）自分にしか見られない見方で物事を見る力が必要」と話す一方で、「誰にでも悪い印象を与えてはいけない。そのためには外見も重要」と話し、内面と外見を磨く大切さを話した。

また、「自分の専門分野については簡単に面白く」と、人に興味を持ってもらえる話をすることが必要と、具体例を話し、訪れた学生たちを驚かせていた。【森田篤・杉浦加奈】

神戸大閑話
～其の二十六～

ちんどんサークル
モダン・ドンチキ

地域との交流　積極的に

現在、10人程度のメンバーで活動している。主に週末、地域での演奏や口上などを中心に市民との交流を深める。「楽器の演奏だけでなく口上や衣装を考えたり、地域の人と交流できるのがちんどんの魅力」と座長の田村美香子さん（法・3年）は説明する。毎月第4日曜日に神戸護国神社で行なわれる縁日「バザールイン六甲」に参加。演奏や口上でフリーマーケットの会場を賑わせている。場の雰囲気に合わせて演出を考えたり研究するのも部員の役目。「お客さんに喜んでもらえるようなものを考えている。地域の人とのやりとりも面白い」とメンバーが話す通り、演奏が始まると子ども連れの家族らが集まり、耳を傾けていた。衣装も自分たちで購入したものだという。

モダン・ドンチキは4月に行なわれた全日本ちんどんコンクールで優秀賞を受賞。過去に最優秀賞も受賞している。今年のコンクール当日、部員は一部の授業を欠席して会場の富山まで足を運んだ。「ちんどんをやっている全国の人たちと交流もできる。コンクールの後には参加者全員でパレードをした」と田村さん。サークルの活動範囲は神戸に留まらない。活動の詳細はホームページで。http://donchiki.with-y.net/【森田篤】

縁日で演奏するメンバー（4月24日・護国神社で）

神戸大に被害なし
JR脱線事故

兵庫県尼崎市のJR福知山線塚口―尼崎駅間の第1新横枕踏切手前で、4月25日午前9時18分頃に車両4両が脱線、大破する事故が発生した。事故による死者は107人、負傷者は460人に上る。学務課によると、この事故で神戸大生や教職員の被害は報告されていない。授業は全学部通常通り行われている。

脱線事故に関する他大学の被害状況は2面へ。

神戸大が4位
ウェブランキング

東京大学先端科学技術研究センターの妹尾堅一郎特任教授の研究室が調査している「WEBサイトランキング」の16年度の調査結果で神戸大のWEBサイトは総合4位、国立大学法人の中では1位となった。

伏流水

▽以前、埃まみれの段ボール箱から昔遊んだ覚えのある積み木が出てきた。当時は積み木の一つ一つが大きく、ずっしりした感触だったが、どれも掌に収まる。誕生祝いに買ってもらったはずなので、19年間も所有していたことになる。自分の成長を実感し、懐かしさを感じた。▽ふと幼い頃に自分とよく遊んでくれた近所の人を思い出した。当時、家族の留守中に自分の面倒を見てくれた人だ。一緒にこの積み木で遊んだ覚えがある。▽小学校のある日、その人は入院した。大した病気でないと聞いていたので、病院に見舞いの手紙だけ送って退院を待った。しかし数週間後、その人は何の前触れもなく亡くなった。後から聞いた話では肺癌だったそうだ。▽生まれて初めて「死」について実感した。ついこの間まで元気だった人がどうして死んでしまったのか。死ぬ必要があったのか。▽JR脱線事故で知り合いが負傷した。「あと二両前に乗ってたら俺が死んでたと思う」と言われたときは返事に困った。もし犠牲になっていたらと思うと恐ろしかった。話の中でその人の死を思い出した。▽テレビで流れる遺族の声。聞いていて「死」の無残さ、怖さを改めて感じた。【森田篤】

南紀白浜合宿情報
しらすな会
TEL：0120－53－1662
http://www.shirasunakai.jp/

就活応援 朝日新聞
朝日新聞の会員制サービス
「アスパラクラブ」会員募集中！
あす、パラダイス。
aspara
朝日新聞をもっと楽しく、もっと深く
味わっていただくために、
独自の情報やくらしに役立つ相談など、
多彩なサービスをご提供します。
入会金や年会費は無料です。
http://aspara.asahi.com
朝日新聞ご購読のお申し込みは
ASA 高羽
0120-084013
神戸市灘区土山町1－13

タッチフット

まさかの初戦敗退

2年連続の全国出場ならず

「QBの成長が鍵」今岡コーチ

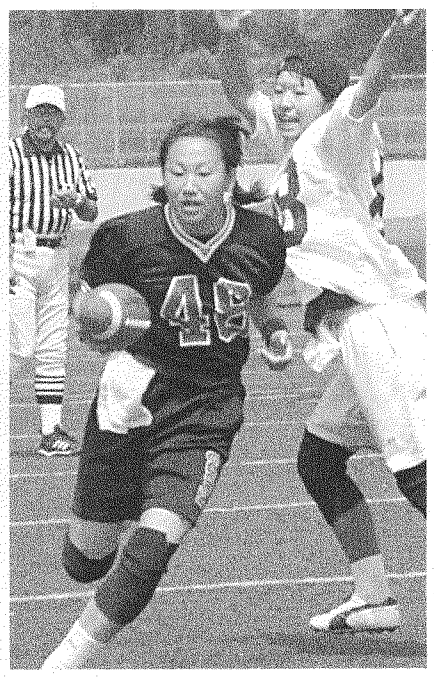
シュガーボウル（全国大会出場）をかけた関西学生女子タッチフットボールトーナメントが、4月10日と5月5日に行われた。昨年、シュガーボウル出場をはたした神戸大は4月10日の初戦で聖和大に0－25で完敗。2年連続出場の夢は断たれた。しかし、5月5日の敗者戦で、神戸大は関学に12－6で勝利、4位となった。

敗者戦が開始し、関学最初のシリーズを凌いだ神戸大は第2Q1分半、QB村田からの高い弾道のパスがWR江間に通りTD。TFPは失敗したものの、先制点をあげる。しかし、その直後、関学にロングランTDを決められ同点に。再逆転を期した神戸大は、関学のインターセプトで残り3Yまで攻められ前半終了。

第3Qは終始攻め続けるも得点に結びつかない。第4Q4分10秒、WR加藤がTDを奪うがTPFは決められず。関学の攻撃に入ると、徐々に攻められ苦しい展開に。しかし、またしても試合終了の笛に助けられ、12－6で逃げ切った。

「とてもお客さんに見せられる試合じゃなかった。リズムが悪く、判断力、プレーのイメージなど、まだ1年目のQBが戸惑っている部分がある」と今岡コーチ。中村主将も「勝利という結果は自信になったが、TPFが決まらないなど、自分たちの力が満足に出せなかった」と敗者戦は課題の残る勝利となった。

秋に向け、今岡コーチは、「フィジカル面が遅れている。基礎から徹底的にやる。QBの成長が鍵」と話した。【杉浦加奈・椿一臣】



敵を振り切るC三浦（5月5日・王子スタジアムで　撮影＝杉浦加奈）

新歓スポーツフェスティバル

神戸大に白星3つ

初の試みに新入生「面白かった」

「新入生歓迎スポーツフェスティバル」が、アメフット部レイバンズ、男子・女子ラクロス部、応援団総部主催、神戸大共催で4月17日、王子スタジアムで行われた。体育会のクラブが合同で新歓試合を行うのは初めての試み。

新入生全員に無料で観戦できるチケットが配られたこともあり、普段の観客に加えて、新入生も多く会場を訪れた。

試合の結果は女子ラクロスが6－4、男子ラクロスが6－1、アメフットも28－20といずれも神戸大が白星をあげた。

試合中、観客は応援団に先導され、一丸となって神戸大を応援。会場は熱気に包まれた。

アメフット部の顧問をしている中川正之さんは訪れた新入生に対し「神戸と神戸大を好きになって、良いところを見てください」と挨拶し、「レイバンズは大学の中では一番脚光を浴びるクラブです。テレビで放送されたり、新聞に掲載されることもあります。今年は、『関学敗れる』、『立命敗れる』といったニュースが流れるでしょう」と話すと、会場は拍手に包まれた。

初めてラクロスの試合を観戦したという経済学部の新入生は「今まで見たことなかったのでとても面白かったです。迫力がありました」と興奮していた。

試合後はそれぞれのクラブで新入生を交えての食事会も行われた。【杉浦加奈】

応援団のリードで、神戸大を応援する新入生ら。（4月17日・王子スタジアムで　撮影＝田中義久）

ラクロス
プライドT

奈良女子大に勝利

女子ラクロス

関西学生春季ラクロストーナメントが5月3日に行われた。神戸大は奈良女子大と対戦し、13－2で勝利した。

前半から神戸大が試合の流れを掴んだ。前半1分、MD渡辺のシュートで早くも先制。直後の前半4分に相手に同点とされるも、MD岩松の追加点から一気に7得点。点差で相手を圧倒した。

後半に入っても勢いは衰えない。神戸大は5得点を追加。試合終了間際に1点を許したものの、13－2で試合を終えた。

渡辺主将は「一人ひとりが頑張った結果の勝ちだったと思う」と振り返る。「今後もみんなで攻め、みんなで守るという姿勢を崩さずに試合したい」と目標を話した。（5月3日現在）【森田篤】

近畿学生野球

「一戦必勝」

後半戦に挑む

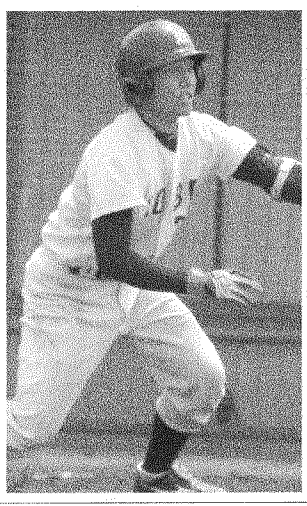
平成17年度近畿学生野球連盟春季リーグ戦が4月5日に開幕した。

第1節の奈産大戦。神戸大は2－10で七回コールド負けを喫した。開幕前、「初戦に勝って勢いに乗りたい」と話していた小野主将の思惑が外れた格好となった。その後の試合も白星を飾ることができず、開幕から4連敗。神戸大のリーグ優勝の可能性はなくなった。しかしチームの闘志は衰えなかった。

4月23日。第3節の大市大との試合で今季初勝利。「うれしいというよりは、気持ちいい勝利」と小野主将はすがすがしい表情をみせた。「常に1戦必勝を掲げている」と今後の試合に向けた目標を話した。

その後、神戸大は2勝1分と勝ち星を重ね、3勝4敗1分の成績で日程を進めている。

現在、阪南大と奈産大が暫定1位。【森田篤】



第三節一回戦の大阪市大戦で先制の適時打を放った余田（4月29日・舞洲ベースボールスタジアムで　撮影＝武井礼美）

同志社に敗れる

関西学生バスケ

第32回関西学生バスケットボール選手権が4月23日に開幕した。シード権を持つ神戸大は初戦で大阪電通大に92－59で快勝。続く大工大との試合も86－62の成績で白星をあげた。しかし5月1日に行われた4回戦で同志社と対戦。47－82で敗れた。優勝は大産大。

横浜国立大に圧勝

アメフット定期戦

第19回アメフット定期戦神戸大－横浜国立大が5月3日、王子スタジアムで行われた。神戸大は、横浜国立大を前半の1TDのみに抑え30－7で圧勝した。結果的には圧勝したが、ファンブルや、タックルを決め切れず、課題の残る試合となった。

アメフット部

創部30周年

記念式典が六甲台講堂で

レイバンズの愛称で親しまれるアメフット部が今年で創部30周年を迎えた。六甲台講堂では同部のOB、OGを招いて記念式典が催された。

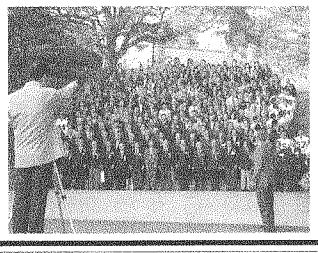
アメフット部の創部30周年記念式典は4月16日に行われた。会場となった六甲台講堂には、アメフット部のOBや応援団を始め、およそ270人の関係者が訪れた。

開式に合わせ、吹奏楽部が「威風堂々」を演奏し、応援団がアメフット部にエールを送った。続いて、創部からのアメフット部の歴史をまとめた映像が会場のスクリーンで上映された。試合の模様が流れると、会場からは現役時代を懐かしむOBの声が上がった。

次に平川和文アメフット部部長、三宅俊宏OB会会長が記念の挨拶。岩崎吉男30周年記念事業実行委員長が、今回の事業を通して「スポーツ交流、地域交流の一助になれば」と思いを述べた。

また、来賓の矢田立郎神戸市長、野上智行学長、吉川明関西アメリカンフットボール協会理事長、新野幸次郎学友会長の4人が祝辞を述べた。

午後4時半に閉式を迎え、正門前で記念撮影が行なわれた。その後、アカデミア館食堂で祝宴が開かれ、来場者は全員で創部30周年を祝った。【森田篤】



式典終了後に来場者全員で記念撮影を行った。（4月16日・六甲台正門前で）